

一橋大学大学院言語社会研究科修士課程入学試験に向けた
学部特別選考（「社会学部・大学院言語社会研究科修士課程 5 年一貫教育プログラム」
参加者選考）の実施について

1. 言語社会研究科について

言語社会研究科は、「社会科学の総合大学」を標榜する一橋大学で唯一、人文学を軸とする大学院であり、修士課程・博士課程のみの独立大学院として設置されています。

本研究科は、言語・社会・文化等の研究・教育を通して人文学諸分野の発展に寄与するとともに、深い人文的教養をもって現代社会の諸問題を解決する力を持つ人材を育てるこことをめざしています。この目標を実現するために、「人文総合（第 1 部門）」と「日本語教育学位取得プログラム（第 2 部門）」の二部門体制をとっています。第 1 部門では、言語、思想、文学、芸術など人文学の多様な分野をカバーし、豊かな人文的教養と深い専門的知識を兼ね備えた人材の育成に努めています。第 2 部門は、本学の国際教育交流センターならびに国立国語研究所の協力を得て運営されており、日本語教育・日本語学の分野で新たな時代の要求に応える専門家の養成をめざし、第 1 部門とも緩やかな連携を保ちつつ、多くの留学生を迎えて、日本語教育の分野で国際的に活躍したい人のための修練の場を形成しています。

修士課程では、所定の年限在学し、所定の単位を修得し、本研究科が行う学位論文の審査及び最終試験に合格した者に、修士（学術）の学位を授与します。第 2 部門修士課程修了者に対しては、修士学位に加え、履修上の一定の条件を満たせば、高度の専門性を修得した証として、「日本語教育学位取得プログラム修了証」が授与されます。

本研究科の詳細は Web サイトをご覧ください。

○一橋大学大学院言語社会研究科（<https://gensha.hit-u.ac.jp/>）

2. プログラムの趣旨

2028 年度一橋大学大学院言語社会研究科修士課程入学試験に向けて、言語社会研究科は、社会学部の協力のもと、2027 年度「社会学部・大学院言語社会研究科修士課程 5 年一貫教育プログラム」参加者の募集を開始します（参加者募集及び選考は 2026 年度実施予定）。「学部・大学院修士課程 5 年一貫教育プログラム」とは、学部入学から 5 年間（学部 4 年・修士課程 1 年）で学士号および修士号を取得できるプログラムです。プログラム参加資格者は学部 4 年次から大学院科目を履修し、翌年修士課程に進学後、1 年間で修士号を取得することができます。研究者または高度職業人を目指す優秀な社会学部在籍者が、学部教育と大学院教育を融合させた密度の濃い教育を受け、専門知識、思考力、分析力、アウトプット力を短期間で向上させるとともに、早期のキャリア形成を行えるよう支援することを目的とします。

3. プログラムの概要

- ・本プログラムの参加を希望する学生は、社会学部3年次に言語社会研究科が実施するプログラム参加者選考試験を受験し、合格する必要があります。本プログラムは、社会学部・社会学研究科が実施する「学部・大学院修士課程5年一貫教育プログラム」と枠組みが異なるため、言語社会研究科の修士課程に進学希望の学生は本プログラムの参加を検討してください。
- ・プログラム参加資格者となった学生は、学部4年次に学部授業と大学院授業を並行して履修します。
- ・プログラム参加資格者は、学部4年次に言語社会研究科修士課程入学試験に合格することで、修士課程1年間で修士号（「修士（学術）」）を取得する資格を得ます。
- ・言語社会研究科修士課程入学試験は、秋季と春季の2回実施しますが、修士課程第1部門・第2部門（秋季）（特別選考含む）、修士課程第1部門（春季）のいずれかを受験できます。ただし、第2部門への進学を希望する学生の入学試験は、修士課程第2部門（秋季）のみとなりますので、ご注意ください。
- ・プログラム参加資格者は、学部4年修了時に卒業論文を含む学部卒業単位を修得し、学士号（「学士（社会学）」）を取得します。
- ・プログラム参加資格者が、5年目（修士課程1年）に進学するためには、修士課程第1部門・第2部門（秋季）（特別選考含む）、修士課程第1部門（春季）のいずれかに合格する必要があります。
- ・大学院のカリキュラムとしては、学部4年次が修士課程1年次、修士課程1年次が同2年次と同等とみなされます（5. プログラムのスケジュールを参照）。修士課程の必修科目はそれに基づいて履修します。
- ・本プログラムの参加によって取得した学位（学士号・修士号）は、標準修業年限（学部4年・修士2年）で取得される学位と同一です。

4. プログラム参加資格者の選考

- ・選考試験は毎年1月に行う予定です（前年12月出願）。
- ・出願資格者は、社会学部3年次に在学する者（2026年度10月1日現在）のうち3年次春夏学期までのGPAが3.0以上の者です。
- ・出願時に、学部4年次から指導を希望する言語社会研究科の大学院ゼミ担当教員の承諾を得て、志願票の「修士課程で希望する指導教員」欄に記入してください。学部3年次の主ゼミ教員から変更することもできます（ゼミ変更する場合は、手続きが必要となりますので、注意してください）。なお、学部4年次の主ゼミ教員と大学院ゼミ担当教員

は同じ教員である必要があります。また、学部卒業後、大学院入学時からの指導教員変更は、やむをえない場合を除き、認めません。

言語社会研究科の大学院ゼミ担当教員は以下を参照してください。

○言語社会研究科第1部門（人文総合）演習指導担当教員一覧

<https://gensha.hit-u.ac.jp/staff/>

○言語社会研究科第2部門（日本語教育学位取得プログラム）演習指導担当教員一覧

<https://gensha.hit-u.ac.jp/staff/index2.html>

- ・参加者選考試験では、出願書類（志願書・研究計画書・成績証明書など）と口述試験の総合点で合否を判定します。口述試験では、これまでの学修状況、研究関心、修士号取得に向けての研究計画などを聞きます（30分程度）。

5. プログラムのスケジュール



＜参考＞2027年度5年一貫教育プログラム参加者の2028年度入学を想定した
選考スケジュール等について（予定含む）

実施時期	事項
2026年5~6月	プログラム参加者実施要項（Webサイト公表）
2026年12月	プログラム参加資格者選考試験出願（学部3年次）
2027年1月	同 受験
2027年4月	プログラム参加開始、大学院科目履修（学部4年次）
2027年10月	言語社会研究科修士課程第1部門・第2部門（秋季） (特別選考含む) 入学試験受験*
2028年1月	言語社会研究科修士課程第1部門（春季）入学試験受験*
2028年4月	修士課程入学
2029年1月	修士論文提出
2029年2月	(博士後期課程進学試験受験)

2029年3月	修士課程修了（修士号取得）
2029年4月	修士後期課程進学・就職など

(*について、プログラム参加資格者はいずれかの入学試験を受験し合格することにより、修士課程に進学することができます。)

6. 科目履修

- ・プログラム参加資格者にとって学部4年次は、身分上は学部生ですが、大学院のカリキュラム上は大学院生と同等に扱われます。図書館の貸出冊数も大学院生扱いとなります。ただし、学部4年次の間はマーキュリータワーの院生研究室を使用することはできません。
- ・学部4年次から大学院科目の履修が可能になり、修得した単位は、修士課程進学後に所定の手続きを経て、修士課程修了の必要単位数に算入されます。
- ・また学部4年次には、学部後期ゼミと大学院ゼミの両方を履修します。
- ・プログラム参加資格者の学部4年次に提出する卒業論文の取扱いは、社会学部の定める取扱いに従うものとします。
- ・大学院言語社会研究科は、言語社会専攻の1専攻で、第1部門（人文総合）と第2部門（日本語教育学位取得プログラム）からなります。修士課程入試出願時に選択した部門が大学院入学後の所属部門となります。
- ・修士課程1年次に提出する修士論文は、通常の修士課程2年生が提出する修士論文と同じ要件となります。